

新たな歩み

小島 周二

Kojima Shuji

(東京理科大学薬学部, Isotope News 編集委員長)



2011年3月11日に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故後、早いもので5年が経過しました。この間、住居区をはじめ、田畑などの除染も国指導で実施され、昨年度末までに国直轄除染の対象となる除染特別区においては、面的除染はほぼ終了しました。福島第一原発は廃炉となり、全ての原発は2012年5月までに運転が停止され、2013年7月から原子力規制委員会による再稼働に向けた安全性審査が開始されました。2014年9月にはじめて九州電力川内原発に合格証が交付され、現時点（2016年3月15日）で、1・2号機が再稼働しています。今夏には四国電力伊方原発3号機も再稼働される予定です。

ところで、世界情勢に目を向けますと、去年はイスラム国（IS）によるパリ同時多発テロをはじめ、世界各国でテロ事件が多発しました。これまでのテロ攻撃は“爆発物を仕掛ける”，あるいは自爆により実行されてきましたが、今後は遠隔操作によるミサイルや無人機によるものも予想され、テロ対策は一層難しくなると思われます。我が国は原発大国であり、多量の使用済核燃料やプルトニウムを保有していることから、これらがテロの標的となることも危惧されます。平和利用の象徴であった「原発」はテロの温床になりうることから、原発本体の安全対策のみならず、「核テロ」対策に取り組むことも喫緊の要事でありましょう。その他、環太平洋経済協定（TPP）の準拠、尖閣諸島をはじめとする周辺諸国との領有問題に対する対応如何によって我が国の政治・経済の激変も予想されます。

さて本協会に目を向けますと、数年前よりこれまでの事業見直しが実施され、大きな新事業の一つとして、「(仮称)川崎研究開発センターの新設」があり、昨年度より工事が始まっております。本誌 Isotope News も見直しが行なわれ、今号より従来の月刊誌から隔月誌へ移行することになりました。顧みれば、本誌は64年前（1952年）に「協会ニュース」として理工農生医薬分野のアイソトープに関する情報誌として第一歩を踏み、1969年に「Isotope News」に改称、現在までアイソトープ（RI および SI）、加速器、放射線利用等に関する“情報誌”として、半世紀以上もの長期に渡り、会員の皆さまに親しまれてきました。ここに改めて編集委員長として、会員の皆さまならびに歴代編集委員の方々へ感謝の意を表します。RIは1950年に初めて米国よりアンチモンが輸入され、理工農生医薬分野で学術研究並びに産業利用が開始されました。その後、これらの利用は1990年代にピークとなり、2000年代に入って、RIに代わる手法（蛍光/化学発光）の登場により、瞬く間に低下して行きました。ちなみに、昨今の利用状況はピーク時の10分の1以下にまでに低減しているようです。いずれの分野にも、“栄枯盛衰”はあるもののでしょうか？ 米国の女性海洋生物学者レイチェル・カーソン（1907～1964年）は、「“夜の次に朝がきて、冬が去れば春になるという確かさ”の中には、限りなく私たちを癒してくれる何かがある」という名言を残しています。Isotope News も“新たな歩み”を摸索しつつあります。さあ！ 今まさに春到来！ 編集委員一同、会員の皆さまのニーズに合った Isotope News になるよう“新たな歩み”に向かい進む所存です。読者の皆さまには引き続きご愛読いただけますよう、今後ともご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。